

牛久：学校周辺に見る自然

第30号 みずべ公園(ひたち野うしく小)

2016年10月17日発行

< 動物のすみか ～ ⑥ 北上するチョウたち >

こんにちは。9/27, 10/4にひたち野うしく小3年生と歩いたみずべ公園、今回は温暖化のためなぶんぶのか分布を北に広げてきているチョウたちを紹介しましょう。

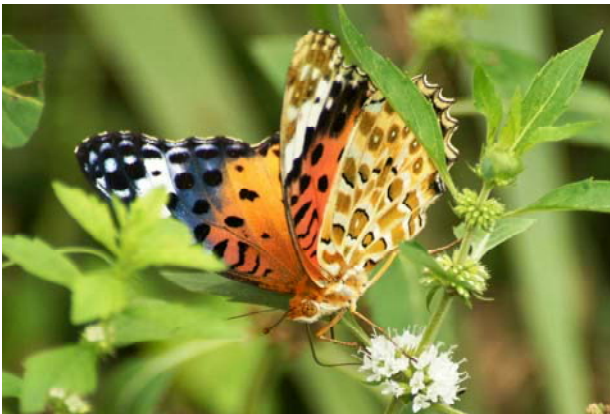


地上を移動していたツマグロヒョウモンの幼虫(左上)。パンジーなどスミレ類の葉を食べて育つ(左下2010. 6. 26宮内家)。毒々しくトゲもあるが触っても大丈夫(右上2014. 4. 14ひたち野うしく小)。



赤と黒のもようでトゲトゲのある、とてもグロテスクな幼虫が歩いているのを見つけてくれましたね。これはタテハチョウ科のなかまで、ツマグロヒョウモンの幼虫。いかにも毒々しくトゲトゲもあって、さわると大変なことになりそうですが、毒はありません。トゲトゲもそれほどかたくはなく、上の写真のように、手のひらに乗せてもささることはありません(昨年の4年生春の観察から帰って、校舎前で見つけた幼虫を子どもたちが手にのせている写真です)。どうやら、鳥などの天敵に食べられないように、このようなすがたに進化したらしいです。

さなぎは茶色っぽいですがやはり表面には突起があり、しかも頭側のものは金色に輝いています。これも天敵をさけるように進化した結果といえるでしょう。



成虫は主に花の蜜を吸い、みずべ公園でも季節のいろいろな花に来ます。何度も紹介してきたようにもともと南の地方のチョウなのですが、もはやここで一番よく目にするチョウかもしれません。めすは羽のすみに青黒いもようがあつてこれが名の由来(端黒)になっていますが、これも毒チョウのカバマダラに似せて鳥などをさけるように進化したのだそうです。

黄金の突起をもつ蛹(上2010. 7. 6宮内家)とハッカの蜜を吸うめす(下)。



そして今回なんとも衝撃的しょうげきてきだったのが、この動物の糞ふんを吸すっていたおすたちでしょう。「花じゃないけど何を吸すっているんだろ？」と、少し興奮こうふんぎみ気味に私を呼んでくれましたね。私もこのチョウは花みつの蜜すを吸すがたっている姿しか見たことがなかったので、とてもびっくりしましたよ。他のチョウの研けんきゆう究きゆうで、おすは交尾こうび前に精せい子しをつくるなどのために、窒素ちつそふん分ぶんやミネラルほきゆうを補給ほきゆうするのにに獣糞じゅうふんや泥水どろみずなどを積極せっきよくてき的に吸すうという話を聞いたことがあり、これもたぶん同様の例だと思っています。



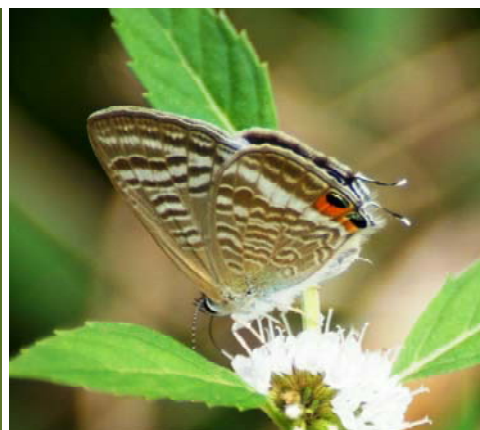
池の近くの草はらで、おすとめすがいっしょにひらひらと飛んでいるのも見つけましたね。おすが求きゆう愛あいしているのだそうですが、めすが相手のおすを気あいてにしていると右下のように交尾こうびし、その後めすが産卵さんらんします。さて、ということは近くしよくそうに食草しょくそうのスミレ類るいがあるということになります、どうでしょう？

獣糞じゅうふんを吸すうツマグロヒョウモンのおす(上)と、いっしょにとぶおすとめす(左下：上がオスで下がメス)。交尾こうびするおすとめす(右下：左がオスで右がメス 2011. 9. 15みずべ公園)。



下見の時には、もう1種類、南のチョウを見つめました。第20号でも紹介しょうかいしたクロコノマチョウです。飛んできたので気がつきましたが、じつととまっていたらたぶん分からなかったでしょう。温暖化おんだんかのためなのか、ツマグロヒョウモン同様、このチョウも毎年ふんぶ分布ぶんぷを北きたに広ひろげているようです。幼虫ようちゆうはヨシヤススキなどの葉を食べ、成虫せいちゆうで越冬えつとうするそうです。

分布ぶんぷを北きたに広ひろげるクロコノマチョウ。



最後に夏の終わりから秋にかけてよく見かける、ウラナミシジミ。産卵さんらんから幼虫ようちゆう、さなぎ、成虫せいちゆうをくり返しながらか北きた上あがするが、冬の寒たさに耐えられず死しんでしまい九州～関東南部えつとうでしか越冬えつとうできないそうです。【理科支援員：宮内】

ヒナタイノコヅチ(左)とハッカ(右)の蜜みつを吸すう、ウラナミシジミ。発生えつとうをくり返しながらか北きた海道かいどうまで北上へいしやうするが、越冬えつとうできない。